

授業科目名： 理学療法評価学Ⅰ Physical Therapy AssessmentⅠ	必修：理2年	単位数： 2単位 30時間	担当教員名： 堀本佳誉〔理学療法士〕 (研究室：仁戸名研究室10) 坂崎純太郎〔理学療法士〕
		コード：RPB202	
	実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践、Ⅱ コミュニケーション能力			
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・理学療法における測定および評価の意義・位置づけと構成要素を説明できる。 ・関節可動域検査、整形外科的検査の意義および方法を説明でき、健常者に対し適切に実践できる。 ・統合と解釈について理解し、その方法を説明できる。			
〔授業の概要〕 本授業では理学療法における測定・検査および評価の意義や目的、測定・評価の進め方、統合と解釈に関する知識を修得する。			
キーワード：理学療法、測定、評価、関節可動域検査、疼痛評価、姿勢評価、歩行評価			
〔授業計画〕			
回数	テーマ	内 容	担当者
第1回 (4/10 Ⅲ)	総論 スタンダードプリコーション	オリエンテーション スタンダードプリコーションの実施	堀本・坂崎
第2回 (4/10 Ⅳ)	バイタルチェック	血圧・呼吸・脈拍	堀本・坂崎
第3回 (4/17 Ⅲ)	触診	ランドマークの触診	堀本・坂崎
第4回 (4/17 Ⅳ)	関節可動域測定	股関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第5回 (4/24 Ⅲ)	関節可動域測定	膝関節・足関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第6回 (4/24 Ⅳ)	関節可動域測定	肩関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第7回 (5/1 Ⅲ)	関節可動域測定	肘関節・前腕・手関節の関節可動域測定	堀本・坂崎
第8回 (5/1 Ⅳ)	関節可動域測定	下肢の関節可動域測定復習	堀本・坂崎
第9回 (5/8 Ⅲ)	関節可動域測定	上肢の関節可動域測定復習	堀本・坂崎
第10回 (5/8 Ⅳ)	関節可動域測定	まとめ	堀本・坂崎
第11回 (5/15 Ⅲ)	姿勢	姿勢の評価①	堀本・坂崎
第12回 (5/15 Ⅳ)	姿勢	姿勢の評価②	堀本・坂崎
第13回 (5/22 Ⅲ)	関節可動域測定	実技テスト	堀本・坂崎
第14回 (5/22 Ⅳ)	関節可動域測定	実技テスト	堀本・坂崎
第15回 (5/29 Ⅲ)	歩行	量的な歩行評価	堀本・坂崎
履修条件	「人体の構造Ⅰ」「人体の構造Ⅱ」「人体の構造実習」「運動学Ⅰ」「機能解剖学」の単位を全て修得していること。		
予習・復習	予習として、テキストの該当箇所を読んでください。 復習として、テキストと配布資料の確認および実技練習の実施により、知識・技術の定着をはかってください。		
テキスト	理学療法評価法学 第6版（金原出版）		
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価	実技・筆記試験（90%）、学習態度（10%）により、総合的に評価する。		

授業 科目 名	理学療法評価学演習 (Practice of Physical Therapy Assessment)	履修年次: 必修: 理学 2 年	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 江戸優裕 (仁戸名研究室 12) 室井大佑 (仁戸名研究室 1) 稲垣 武 (仁戸名東校舎 1) [いずれも理学療法士]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 疼痛評価、形態測定、徒手筋力検査法の理論と実施方法を理解するとともに基本的技術を習得する。				
〔授業の概要〕 対象者の症状や障害を把握するための理学療法評価の理論と技術を身につける授業である。疾患に関わらず普遍的に用いられる疼痛評価、形態測定、徒手筋力検査法について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 理学療法評価、検査・測定、疼痛評価、形態測定、徒手筋力検査				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	5/28 Ⅲ 幕張	リエンテーション 疼痛評価	受講にあたっての注意事項と成績評価 疼痛の評価	室井大佑
第 2 回	6/5 Ⅲ	形態測定①	体格指数、四肢長・肢節長、周径	室井大佑・稲垣武
第 3 回	6/5 Ⅳ	形態測定②	〃	室井大佑・稲垣武
第 4 回	6/12 Ⅲ	実技試験		室井大佑・稲垣武
第 5 回	6/12 Ⅳ	徒手筋力検査①	体幹の徒手筋力検査	江戸優裕・稲垣武
第 6 回	6/19 Ⅲ	徒手筋力検査②	上肢の徒手筋力検査 (主に肩甲骨)	江戸優裕・稲垣武
第 7 回	6/19 Ⅳ	徒手筋力検査③	〃 (主に肩関節)	江戸優裕・稲垣武
第 8 回	6/26 Ⅲ	徒手筋力検査④	〃 (主に肘関節・前腕)	江戸優裕・稲垣武
第 9 回	6/26 Ⅳ	徒手筋力検査⑤	〃 (主に手関節)	江戸優裕・稲垣武
第 10 回	7/3 Ⅲ	徒手筋力検査⑥	下肢の徒手筋力検査 (主に股関節)	江戸優裕・稲垣武
第 11 回	7/3 Ⅳ	徒手筋力検査⑦	〃 (〃)	江戸優裕・稲垣武
第 12 回	7/10 Ⅲ	徒手筋力検査⑧	〃 (主に膝関節)	江戸優裕・稲垣武
第 13 回	7/10 Ⅳ	徒手筋力検査⑨	〃 (主に足関節)	江戸優裕・稲垣武
第 14 回	7/17 Ⅲ	実技試験		江戸優裕・稲垣武
第 15 回	7/17 Ⅳ	総括		江戸優裕
履修条件		特になし。実技を行うため運動着で出席すること。		
予習・復習		予習は機能解剖学、運動学、理学療法評価学Ⅰの内容を再確認し、復習は授業資料とテキストを見返すこと。		
テキスト		「新・徒手筋力検査法」Dale Avers・他著、津山直一・他訳 (協同医書出版)		
参考書・参考資料等		日本理学療法学会連合版 徒手筋力検査法 (メジカルビュー)、理学療法評価学 (医歯薬出版)、理学療法評価学 (メジカルビュー)		
学生に対する評価		筆記試験 (40%)・実技試験 (40%)・日ごろの学習態度 (20%)		

授業科目名： 理学療法評価学Ⅱ (Physical Therapy Assessment Ⅱ)	必修：理2年 実務経験のある教員による授業科目	1単位：15時間 コード：RPB302	担当教員名： 堀本佳誉 (仁戸名研究室10) 坂崎純太郎 [理学療法士]
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅰ 倫理観とプロフェッショナリズム			
[授業の到達目標及びテーマ] 本授業では、神経系障害に対する検査・測定の基本的手技を実施し、その結果を評価することを目標に、以下のテーマで講義を進めていく。 ① 神経系の障害に由来する神経学的徴候を説明することが出来る。 ② 各神経学的徴候に対する検査・測定の基本的手技を実施することが出来る。 ③ 検査・測定の結果を記載し、評価することが出来る。 ④ 各症状に対する理学療法の治療について理解する。			
[授業の概要] 本授業では神経系障害に対する測定・検査および評価の意義や目的、測定・評価の進め方、統合と解釈に関する知識を修得する。			
キーワード：神経系障害、検査、測定、評価			
[授業計画]			
回数	テーマ	内 容	担当
第1回(10/7 I)	概論 神経系障害評価1	神経系障害における理学療法評価の流れ 感覚検査・知覚検査	堀本・坂崎
第2回(10/21 I)	神経系障害評価2	反射検査・病的反射検査	堀本・坂崎
第3回(10/28 I)	神経系障害評価3	協調性検査	堀本
第4回(11/4 I)	神経系障害評価4	筋緊張検査	堀本・坂崎
第5回(11/11 I)	神経系障害評価5	脳神経検査、高次脳機能検査	坂崎
第6回(11/18 I)	神経系障害評価6	運動麻痺検査	堀本・坂崎
第7回(11/25 I)	神経系障害評価7	SIAS、 Fugl-Meyer Assessment	堀本・坂崎
第8回(12/2 I)	神経系障害評価8	バランステスト	堀本・坂崎
履修条件	動きやすい服装、膝・肘を露出できる服装で参加してください。		
予習・復習	各機能に関する解剖学および生理学的な知識を復習しておくこと。		
テキスト	理学療法評価法学 第6版（金原出版） 症例動画でわかる理学療法臨床推論 統合と解釈実践テキスト（羊土社）		
参考書・参考資料等	指定しない。授業の中で適宜配布・紹介する。		
学生に対する評価	筆記試験（90%）、学習態度（10%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	理学療法評価学Ⅲ (Physical Therapy Assessment Ⅲ)	履修年次:	単位数:	担当教員名:室井大佑 (仁戸名研究室1) 堀本 佳誉、大谷拓哉、稲垣武、 坂崎純太郎
		必修:	1 単位 30 時間	
		理2年	コード: RPB303	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 臨床現場の雰囲気慣れ、理学療法評価学で学習した成果を実践することを目的とします。 ① 理学療法評価学で学んだ評価方法の確認をします。 ② 現場での正確な計測ができるよう、経験を積みます。				
〔授業の概要〕 理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、理学療法評価学演習をはじめ、整形外科や神経科学の総論と各論で学習をしてきた身体機能の構造やはたらきを臨床施設の利用者さんを通して、測定の意義や理解を深める。運動器系障害や中枢神経系障害を問わず、施設の利用者さんと直接触れる機会を設け、測定する前後にペーパー・ペーシェントなどを使った検査測定と評価をシミュレーションし、理学療法評価法を理解する。3 学年の臨床実習Ⅱに向けての取り組みの位置づけである。				
キーワード:				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	11/20 Ⅳ	オリエンテーション	講義概要の説明、実習の心得、実技練習	堀本佳誉
第2回	11/27 Ⅲ	評価の実際	実技練習	坂崎純太郎
第3回	11/27 Ⅳ	評価の実際	実技練習	坂崎純太郎
第4回	12/4 Ⅲ	評価の実際	評価の一連の流れのデモンストレーション	室井大佑
第5回	12/4 Ⅳ	評価の実際	症例動画の提示と解釈	室井大佑
第6回	12/11 Ⅲ	評価の実際	評価のリストアップと役割分担	室井大佑
第7回	12/11 Ⅳ	評価の実際	評価の一連の流れの実技練習	室井大佑
第8回	12/18 Ⅲ	評価の実際	当事者の方への評価①	全教員
第9回	12/18 Ⅳ	評価の実際	当事者の方への評価②	全教員
第10回	1/22 Ⅲ	評価の復習	当事者の方への評価の復習①	全教員
第11回	1/22 Ⅳ	評価の復習	当事者の方への評価の復習②	全教員
第12回	1/29 Ⅲ	評価結果の記録と解釈	臨床での報告書の実際	室井大佑
第13回	1/29 Ⅳ	報告書の作成	当事者の方の評価結果の報告書の作成	室井大佑
第14回	2/5 Ⅲ	プレゼンテーション	評価結果と解釈のプレゼンテーション①	室井大佑
第15回	2/5 Ⅳ	プレゼンテーション	評価結果と解釈のプレゼンテーション②	室井大佑
履修条件		臨床実習の服装・身なりで臨むこと。評価器具を準備すること。		
予習・復習		シラバスに沿って、実習を行います。		
テキスト		新・徒手筋力検査法（第9版）、理学療法評価法学 第6版（金原出版）		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介します。		
学生に対する評価		レポート（85%）、授業時の学習態度（15%）により、総合的に評価する。		

授業 科目名	理学療法評価学Ⅳ (画像評価) Physical Therapy Assessment Ⅳ : Assessment using Images	履修年次:	単位数:1 単位	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室 1)、江戸優裕(仁戸名研究室 12)、稲垣 武(仁戸名東校舎 1)、[いずれも理学療法士]
		必修 理 3 年	コード: RPB203	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 本授業では、理学療法評価の一環としての画像の見方を学び、以下の到達目標を達成する。 ①レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 ②CT・MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 ③超音波エコー画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。				
〔授業の概要〕 医師が行う画像診断とは異なり、理学療法士が行う運動機能評価の観点での画像の見方を解説する。臨床で用いられることが多い画像検査装置の概要、正常画像と異常画像の相違、そして各種画像所見から推察される機能障害を学ぶことにより、理学療法評価としての側面を有する画像の捉え方を理解する。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: レントゲン・CT・MRI・超音波・運動器疾患・中枢神経疾患・内部疾患				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	10/1	オリエンテーション・総論	受講にあたっての注意事項と成績評価 理学療法士が行う画像評価の意義 各種画像検査法の基本(レントゲン・CT・MRI など)	江戸優裕
第2回	10/8	運動器疾患①	運動器疾患における画像評価	江戸優裕
第3回	10/15	運動器疾患②	〃	江戸優裕
第4回	10/22	中枢神経疾患①	中枢神経疾患における画像評価	室井大佑
第5回	10/29	中枢神経疾患②	〃	室井大佑
第6回	11/5	中枢神経疾患③	〃	室井大佑
第7回	11/12	内部疾患①	内部疾患における画像評価	稲垣 武
第8回	11/19	内部疾患①	〃	稲垣 武
履修条件		特になし		
予習・復習		人体の構造や機能解剖学で学んだ解剖学(骨・筋・関節・肺・心臓・脳など)を三次元的にイメージしながら復習しておくこと。		
テキスト		配布資料、画像評価(医学書院)		
参考書・参考資料等		リハビリに直結する!運動器画像の見かた(羊土社)、リハで活用!わかりやすい運動器エコー(メジカルビュー)、リハに役立つ脳画像(メジカルビュー)、リハビリテーションに活かす呼吸・循環モニタリング(メジカルビュー)		
学生に対する評価		授業態度 (20%)・筆記試験 (80%)		

授業 科目名	日常生活活動学 (Activities of Daily Living)	履修年次: 理学2年(必修)	単位数: 2単位 30時間 コード:RPB204	担当教員名: 稲垣武 [理学療法士] (東校舎1)
		実務経験のある教員による授業科目		
	〔DP〕 III 実践に必要な知識			
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
① 日常生活活動(ADL)の概念および評価を理解できる。 ② 健常者の一般的な動作の方法やパターンについて理解できる。 ③ 各種歩行補助具や福祉用具の使用方法について理解できる。 ④ 一部の疾患により活動制限がある患者に対する生活活動指導の進め方について理解できる。				
〔授業の概要〕				
本授業では、理学療法の評価・治療立案・目標設定において重要な位置づけとなる日常生活活動(ADL)について講義形式で学習する。その概念や一般的な動作パターン、具体的な評価方法、環境の工夫や福祉用具等について理解し、一部の疾患が日常生活に及ぼす影響を含めて学習することで、後期の「日常生活活動学演習」に必要な知識を身につける。				
キーワード: ADL、ICF、起居・移動動作、住環境整備				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	
第1回	4/10 II	ADLの概念	ADLの定義、障害構造、ADLとQOL	
第2回	4/17 II	起居・移動動作①	運動学的視点、基本的な姿勢	
第3回	4/24 II	起居・移動動作②	寝返り、起き上がり	
第4回	5/1 II	起居・移動動作③	立ち上がり、移乗動作	
第5回	5/8 II	起居・移動動作④	歩行、四つ這い、いざり、階段昇降	
第6回	5/15 II	移動に関連した補助具	歩行補助具、車いす	
第7回	5/22 II	セルフケア	食事、整容、更衣、排泄、入浴など	
第8回	5/29 II	セルフケアの補助具	福祉用具、自助具	
第9回	6/5 II	ADL評価の総論	ADL評価の意義・目的、方法	
第10回	6/12 II	バーセルインデックス(BI)	BIの歴史、特徴、評価項目	
第11回	6/19 II	機能的自立度評価法(FIM)	FIMの歴史、特徴、評価項目	
第12回	6/26 II	生活環境	住宅環境の評価と整備	
第13回	7/3 II	疾患別ADL①	呼吸器疾患のADL	
第14回	7/10 II	疾患別ADL②	循環器疾患のADL	
第15回	7/17 II	まとめ	講義全体の総括	
履修条件		1年時配当の「リハビリテーション専門基礎科目」および「理学療法概論」の単位が修得済であること。		
予習・復習		参考書の関連領域を読んで予習・復習を行うこと。		
テキスト		特になし。		
参考書・参考資料等		標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学(医学書院)、Closslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学(MEDICAL VIEW)		
学生に対する評価		定期試験(85%)、学習態度(15%)により総合的に評価する。		

授業 科目名	日常生活活動学演習 (Practice for Activities of Daily Living)	履修年次:	1 単位 30 時間	担当教員名: 大谷拓哉 [理学療法士] (仁戸名研究室 11)、江戸優裕 [理学療法士]、室井大佑 [理学療法士]
		必修: 理 2 年	コード: RPB304	
		実務経験のある教員による授業 科目		

〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅳ 健康づくりの実践

〔授業の到達目標及びテーマ〕
寝返り、起き上がりなど基本動作や食事や排泄までも含めた日常生活活動（ADL）の知識について演習を通して理解することを目標にします。併せて、ADL 評価、基本動作の指導方法、介助方法などを修得します。
① 日常生活活動を観察により分析し、説明できる。
② 日常生活活動における動作や活動の評価方法を修得する。
③ 日常生活活動の指導、介助の要点を理解する。
全ての単元を理学療法士の実務経験のある教員が担当します。

〔授業の概要〕
寝返り、起き上がりなどの基本動作や食事や排泄等までも含めた日常生活活動(ADL)について演習を通して理解をする。ADL についての基本的評価技術や基本動作方法の実践、対象者への介助方法などを修得する。本科目は学生相互の実技実習を取り入れた演習形式により、FIM、Barthel Index などの基本的評価方法や寝返り、起き上がり、車椅子移乗などの動作方法と介助方法を体験し、学生が ADL 訓練を臨機応変に工夫する能力を身につける。また脳血管疾患や脊髄損傷、関節リウマチなどの代表的疾患について演習し、各疾患における ADL 訓練や指導方法を理解する。
キーワード: ADL・脳血管障害・パーキンソン病・脊髄損傷・関節リウマチ

〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第 1 回	10/2	ADL 評価の実際 1	Barthel Index を用いた評価の実際	大谷拓哉
第 2 回	10/2	ADL 評価の実際 2	FIM を用いた評価の実際	大谷拓哉
第 3 回	10/9	起居・移動動作の実際 1	起居動作 1	大谷拓哉
第 4 回	10/9	起居・移動動作の実際 2	起居動作 2、歩行動作 1	大谷拓哉
第 5 回	10/16	起居・移動動作の実際 3	歩行動作 2	大谷拓哉
第 6 回	10/16	起居・移動動作の実際 4	車いす操作	大谷拓哉
第 7 回	10/23	疾患別 ADL①	脊髄損傷 1	室井大佑
第 8 回	10/23	疾患別 ADL②	脊髄損傷 2	室井大佑
第 9 回	10/30	疾患別 ADL③	脳卒中 1	室井大佑
第 10 回	10/30	疾患別 ADL④	脳卒中 2	室井大佑
第 11 回	11/6	疾患別 ADL⑤	人工骨頭置換術、人工股関節置換術	江戸優裕
第 12 回	11/6	疾患別 ADL⑥	下肢切断	江戸優裕
第 13 回	11/13	疾患別 ADL⑦	関節リウマチ	江戸優裕
第 14 回	11/13	疾患別 ADL⑧	パーキンソン病	室井大佑
第 15 回	11/20	まとめ	講義全体のまとめ	大谷拓哉

履修条件	特になし
予習・復習	予習として各単元のテーマについて参考書等を確認してください。復習は講義内容を整理してください。
テキスト	特になし
参考書・参考資料等	特になし
学生に対する評価	課題（80%）、学習態度（20%）により総合的に評価する。

授業科目名	物理療法学 (Electrophysical Agents)	履修年次: 必修: 理学2年	単位数: 1単位 15時間 コード: RPB205	担当教員名: 科目責任者 江戸優裕 (仁戸名研究室12)
		実務経験のある教員による授業科目		大谷拓哉 (仁戸名研究室11)、 稲垣 武 (仁戸名東校舎1)、 坂崎純太郎 (仁戸名助教室) [いずれも理学療法士]

〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
代表的な物理療法（温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法など）の種類、およびそれらの生理学的作用や効果、適応・禁忌を理解する。				
〔授業の概要〕				
人体の機能（生理学）で学んだ知識を基礎とし、物理療法を安全かつ効果的に実施するための基本的知識を身につける授業である。代表的な物理療法を取り上げ、その生理学的作用を踏まえて効果や適応・禁忌を学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。				
キーワード: 温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法、水治療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/2	オリエンテーション 総論	受講にあたっての注意事項と成績評価 物理療法の定義・歴史、物理療法と疼痛など	江戸優裕
第2回	10/9	温熱療法	温熱療法の基礎と生理学的作用	大谷拓哉
第3回	10/16	寒冷療法 水治療法	寒冷療法・水治療法の基礎と生理学的作用	坂崎純太郎
第4回	10/23	光線療法 超音波療法	光線療法・超音波療法の基礎と生理学的作用	江戸優裕
第5回	10/30	電気刺激療法 バイオフィードバック療法 ロボットリハビリテーション	電気刺激療法・バイオフィードバック療法・ロボットリハビリテーションの基礎と生理学的作用	坂崎純太郎
第6回	11/6	牽引療法 圧迫療法	牽引療法・圧迫療法の基礎と生理学的作用	稲垣武
第7回	11/13	振動刺激療法 体外衝撃波療法 徒手療法	振動刺激療法・体外衝撃波療法・徒手療法の基礎と生理学的作用	江戸優裕
第8回	11/20	総括		江戸優裕
履修条件		特になし。実技を行うため運動着で出席すること。		
予習・復習		予習は人体の機能の内容（生理学）の再確認およびテキストを確認し、復習は授業資料とテキストを見返すこと。		
テキスト		「最新理学療法学講座 物理療法学」烏野大・他編（医歯薬出版）		
参考書・参考資料等		物理療法学（医学書院）、物理療法（羊土社）、物理療法学（メジカルビュー）		
学生に対する評価		筆記試験（80%）・日ごろの学習態度（20%）		

授業科目名	物理療法学演習 (Practice of Electrophysical Agents)	履修年次: 必修: 理学2年	単位数: 1単位 30時間 コード: RPB305	担当教員名: 科目責任者 江戸優裕 (仁戸名研究室12)
		大谷拓哉 (仁戸名研究室11)、 稲垣 武 (仁戸名東校舎1)、 坂崎純太郎 (仁戸名助教室) [いずれも理学療法士]		
		実務経験のある教員による授業科目		

〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識, Ⅳ 健康づくりの実践				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 代表的な物理療法（温熱療法・寒冷療法・光線療法・超音波療法・電気刺激療法・牽引療法・水治療法など）の実施方法を理解するとともに基本的技術を習得する。				
〔授業の概要〕 物理療法学で学んだ知識を基礎とし、物理療法を安全かつ効果的に実施するための基本的技術を身につける授業である。代表的な物理療法を取り上げ、適切な実施方法について講義と実技を通じて学ぶ。担当教員の理学療法士としての実務経験に基づいてこれらの学習支援を行う。 キーワード: 温熱療法、寒冷療法、光線療法、超音波療法、電気刺激療法、牽引療法、水治療法				
〔授業計画〕				
回数	日付	テーマ	内 容	担当
第1回	10/2	オリエンテーション 総論	受講にあたっての注意事項と成績評価 物理療法の定義・歴史、物理療法と疼痛など	江戸優裕
第2回	10/9	温熱療法①	ホットパック／パラフィン浴	大谷拓哉
第3回	10/16	温熱療法②	超短波／極超短波	江戸優裕
第4回	10/23	寒冷療法 水治療法	アイスパック／持続冷却装置／極低温療法など 部分浴(渦流浴/気泡浴)／全身浴／交代浴	坂崎純太郎
第5回	10/30	光線療法	赤外線／レーザー／紫外線	江戸優裕
第6回	11/6	超音波療法	超音波	江戸優裕
第7回	11/13	電気刺激療法	治療的電気刺激／経皮的電気神経刺激／干渉電流刺激	坂崎純太郎
第8回	11/20	バリエーション ロボットリハビリテーション	筋電図バリエーション／機能的電気刺激 ロボットリハビリテーション	坂崎純太郎
第9回	11/27	牽引療法・圧迫療法	頸椎牽引／腰椎牽引、持続的圧迫／間欠的圧迫	稲垣武
第10回	12/4	振動刺激療法 体外衝撃波療法	局所振動／全身振動 拡散型体外衝撃波／集束型体外衝撃波	江戸優裕
第11回	12/11	徒手療法	筋膜リリース／関節・軟部組織モビライゼーション	江戸優裕
第12回	12/18	実技練習		江戸優裕
第13回	1/8	実技練習		江戸優裕
第14回	1/22	実技試験		全員
第15回	1/29	実技試験		全員

履修条件	特になし。実技を行うため運動着で出席すること。
予習・復習	予習は物理療法学の内容を再確認し、復習は授業資料とテキストを見返すこと。
テキスト	「最新理学療法学講座 物理療法学」 烏野大・他編（医歯薬出版）
参考書・参考資料等	物理療法学（医学書院）、物理療法（羊土社）、物理療法学（メジカルビュー）
学生に対する評価	実技試験（80%）・日ごろの学習態度（20%）

授業 科目名	義肢装具学 Prosthetics and Orthotics	履修年次:	単位数:2 単位	担当教員名: 室井大佑(仁戸名研究室 1) [理 学療法士]、高橋慎也(仁戸名非 常勤講師室) [義肢装具士]
		必修 理 3 年	コード: RPB206	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅲ 実践に必要な知識、Ⅵ 多職種との協働、Ⅶ 生涯にわたる探究心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
1. 義肢の適応となる疾患、障害が説明できる。 2. 義肢の定義、種類、名称について説明ができる。 3. 義肢を必要とする対象者の評価、装着、訓練を実践できる。				
〔授業の概要〕				
本授業では、四肢の欠損に用いられる義肢（義手・義足）について理解を深めるために、これらを必要とする対象者とその定義、種類、名称などについて学ぶ。また、義肢を必要とする対象者を評価し、訓練するための基礎的な知識と技術を習得するために、義肢の評価方法、訓練方法などについて学ぶ。				
キーワード: 義手、大腿義足、下腿義足、特殊義足				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4/15 Ⅲ	ガイダンス・義肢装具総論	シラバス説明・義肢装具総論	室井大佑
第2回	4/15 Ⅳ	義肢概論	義肢の分類、切断レベル、断端管理	室井大佑
第3回	4/22 Ⅲ	下腿義足	下腿義足ソケットの種類、構成要素、足部	室井大佑
第4回	4/22 Ⅳ	大腿義足	大腿義足ソケットの種類、構成要素、膝継手	室井大佑
第5回	5/13 Ⅲ	義足部品Ⅰ(義足足部等)	義足足部の構造と機能を学ぶ	高橋慎也
第6回	5/13 Ⅳ	下腿切断者の身体評価	下腿切断者をモデルに評価方法を学ぶ	高橋慎也
第7回	5/20 Ⅲ	下腿義足の適合評価	下腿切断者をモデルに適合評価方法を学ぶ	高橋慎也
第8回	5/20 Ⅳ	下腿義足の装着訓練	下腿切断者をモデルに装着訓練方法を学ぶ	高橋慎也
第9回	5/27 Ⅲ	義足部品Ⅱ(義足膝継手等)	義足膝継手の構造と機能を学ぶ	高橋慎也
第10回	5/27 Ⅳ	大腿切断者の身体評価	大腿切断者をモデルに評価方法を学ぶ	高橋慎也
第11回	6/3 Ⅲ	大腿義足の適合評価	大腿切断者をモデルに適合評価方法を学ぶ	高橋慎也
第12回	6/3 Ⅳ	大腿義足の装着訓練	大腿切断者をモデルに装着訓練方法を学ぶ	高橋慎也
第13回	6/10 Ⅲ	下肢切断者のプログラム	断端管理、義足の歩行評価	室井大佑
第14回	6/10 Ⅳ	特殊義足	サイム義足、膝義足、股義足の種類	室井大佑
第15回	6/17 Ⅲ	義手	義手の種類、機能による分類と特徴	室井大佑
履修条件		特になし		
予習・復習		予習は、各回の該当内容を熟読のこと。復習はノートと配布資料の見直しを推奨。		
テキスト		PT・OT ビジュアルテキスト第2版 高田治実 他、羊土社		
参考書・参考資料等		義肢装具のチェックポイント第9版 赤井正美 他、医学書院、理学療法テキスト 義肢学、中山書店		
学生に対する評価		評価内容は学習態度(15%)、定期試験 (85%) により行う。		